

『天使にラブ・ソングを…』（てんしにラブソングを、原題: Sister Act）は、1992 年製作のアメリカ映画。

殺人事件の現場を目撃した、しがないクラブ歌手が、かくまわれた修道院で巻き起こす騒動を描いたコメディ。アメリカでは 6 ヶ月を記録する大ヒットロングランとなり、主演のウーピー・ゴールドバーグの人気を不動のものにした。

なお、主役（主人公）はウーピー演じるデロリスだと思われがちだが、主役（主人公）はデロリスを含めた聖キャサリン修道院の聖歌隊のシスター達『全員』であると、監督のエミール・アルドリーノが DVD の特典オーディオコメンタリーで語っている。

あらすじ[編集]

ネバダ州リノのナイトクラブ「ムーンライトラウンジ」で歌うクラブ歌手のデロリスは、ネバダ一帯に縄張りを持つ大物マフィアのボス、ヴィンスの愛人。だがある日、ヴィンスが裏切り者を始末する現場を目撃したため命を狙われる。重要参考人として警察に保護された彼女は、ヴィンスの裁判の日までカトリック系の聖キャサリン修道院にかくまわれる羽目になる。尼僧として振舞うことを余儀なくされたデロリスは堅苦しい生活に辟易するものの、やがて聖歌隊の指揮者を任され、歌手として本領を発揮する。自身のノウハウから下手な聖歌隊を鍛え上げ、退屈な聖歌をモータウンの楽曲の替え歌にアレンジして派手なパフォーマンスを繰り広げ、保守的で厳格な修道院長との対立をよそに、一躍町中の人気者になる。そして、最初は疎んじていた修道院のシスターたちと、歌を通じて徐々に友情を育み、固い絆で結ばれていく。

しかし、平穏な日々も束の間、警察内部の情報が漏れたことでローマ法王を迎えたミサの前日にデロリスがさらわれてしまう。誘拐されかけたがデロリスの機転で逃げ仰せたロバートからデロリスが誘拐された事を知らされたシスター達は動揺する。その中で修道院長の口から彼女の素性を知らされた修道院のシスターたちは再度動揺するも、例え本物の尼僧でなくとも自分たちを教え導き、歌うことの楽しさや素晴らしさを教えてくれたデロリスを救うべく、ヴィンスのアジトであるリノのムーンライトラウンジへ乗り込む。サウザーが間一髪で駆けつけた事で無事救い出されたデロリスは仲間たちに心からの感謝の意を述べて修道院長とも和解し、ローマ法王の御前でのコンサートを大成功に導くのであった。